

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 山口県 】

学校名【 山陽小野田市立有帆小学校 】

1 実践テーマ	I・III・V
2 実施対象者 (学年・人数)	全校児童 143名 (1年13名 2年20名 3年31名 4年17名 5年32名 6年30名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育科) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会(以下オリパラ)を契機としたオリンピック・パラリンピック教育(以下オリパラ教育)を推進し、運動・スポーツへの関心を高めることで、児童の運動習慣の定着・改善を図る。 著名なスポーツ選手によるデモンストレーションや講演から、自らの生き方について考えるとともに、運動や体力向上についての意欲を高める。 パラスポーツの体験を通して、共生社会を構築していくための課題の理解と、その解決に向けた実践的な態度を育てる。
5 取組内容	<p>1 著名なスポーツ選手を活用した運動教室 山口県出身の岩政大樹氏(サッカー元日本代表)を講師に招聘し、運動教室を開催した。</p> <p>① 講演・デモンストレーション・質疑応答(体育館) 対象：全校児童及び教職員・保護者・地域住民</p>



「短所(わるいところ)よりも長所(よいところ)を伸ばす」「考えること」「続けること」の大切さを実体験をふまえて、わかりやすく、そして熱くお話された。



質問にも時間いっぱい、丁寧に答えていただいた。

- ・サッカーを始めたきっかけ
- ・やめたいと思ったことはあるかなどなど……。

②運動教室（運動場）

対象：6年生児童約30名



一緒にサッカーの試合をした。岩政選手と一緒にプレーできたことは、6年生の児童にとって、サッカーに対して興味をもつよいきっかけとなった。



2 レクリエーション協会と連携した運動遊び教室

山口県レクリエーション協会の方を講師に、運動遊び教室を開催した。

① ウォーミングアップ



体じゃんけんや、鬼ごっこ（ポイズンリムーバー）をウォーミングアップで行い、心と体をほぐした。鬼ごっこは、先生方にとっても初めての内容で、授業や休み時間に活用でき、勉強になった。

② ボッチャ体験



ボッチャの説明を受け、老若男女、障がいの有無にかかわらず、すべての人が一緒に、そして競い合えるスポーツということを知った。休み時間には、1年生から6年生までの児童が、学年に関係なく一緒に試合を行い、1年生や2年生が高学年に勝利する場面が何度もあり、すべての人が一緒に、そして競い合えるスポーツということを体験することができた。

③ その他の運動遊びの体験



ラダーゲッターという、運動遊びを行った。誰もが楽しめるもので、パラリンピックの視点に共通していて、全ての児童が楽しめた。

<p>6 主な成果</p>	<p>掲示を工夫し、オリパラに関する情報を提供することで、児童にとってオリパラが身近なものとなり、興味・関心を抱く児童が増えた。</p> <p>県内出身のトップアスリートとの触れ合いを通じて、動きに驚きや憧れを抱くだけでなく、生き方や考え方に感銘を受けた。児童の感想にも「考えることを大切に、何事も継続していきたい」とあった。キャリア教育にもつながる効果が期待できる。</p> <p>ボッチャの体験を通して、すべての人が一緒に、そして競い合えるスポーツの楽しさに触れることができ、共生社会を構築していく上でのスポーツの役割や大切さに気付くことができた。</p> <div data-bbox="491 524 1353 1115" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>オリンピック・パラリンピックに関するアンケート</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>運動やスポーツに関心が高まってきた</td> <td>86.4%</td> </tr> <tr> <td>オリンピック・パラリンピックの種目を自分も行ってみたい</td> <td>68.6%</td> </tr> <tr> <td>自分も選手として出場してみたい</td> <td>40.7%</td> </tr> <tr> <td>試合を見てみたい</td> <td>82.1%</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>実施後のアンケートでは、運動やスポーツに関心が高まった児童は、86%を超えた。「ボッチャ以外のパラスポーツを知りたい。」「サッカーや陸上だけでなくボッチャなど、パラリンピックも見てみたい。」という、感想を述べた児童がいた。試合を見てみたいと回答した児童は82%であり、次年度も引き続きオリパラ教育を推進し、オリパラへの関心を高めることで、運動やスポーツへの関心を高め、運動習慣定着への足掛かりとしたい。</p>	項目	割合	運動やスポーツに関心が高まってきた	86.4%	オリンピック・パラリンピックの種目を自分も行ってみたい	68.6%	自分も選手として出場してみたい	40.7%	試合を見てみたい	82.1%
項目	割合										
運動やスポーツに関心が高まってきた	86.4%										
オリンピック・パラリンピックの種目を自分も行ってみたい	68.6%										
自分も選手として出場してみたい	40.7%										
試合を見てみたい	82.1%										
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>小規模校ながらスポーツ少年団が盛んで、保護者や地域住民が大変協力的である。そこで、著名なスポーツ選手を活用した運動教室では、児童にとって、より身近で憧れを抱き、自らの生き方につなげて考えることができるように、山口県出身のスポーツ選手を招聘した。また、参加者を学校だけでなく、保護者・地域住民にも呼びかけた。</p> <p>トップアスリートの動きを一緒に活動することで、体感できる場を設定した。児童にとって思い出になるだけでなく、スポーツへの興味を高めることにつながると考えた。</p> <p>レクリエーション協会と連携した運動遊び教室では、山口県レクリエーション協会の方を講師に、運動遊び教室を開催した。県レクリエーション協会の方を講師にすることで、教員の知らない新しい運動遊びの情報を得ることができたり、児童への声掛けや遊び方を学んだりすることができ、運動教室後も担任を中心として手軽に実施できるため依頼をした。</p>										

	<p>そして、障害の有無にかかわらず、すべての人が一緒に、そして競い合えるスポーツということでボッチャを選定し実施した。実施後も体験できるように、コートを体育館に常設し、日常的に体験できる環境を整備した。</p> <p>ボッチャを含め、地域全体での広がりが期待できるようにした。公民館主催で、県レクリエーション協会の方を講師にボッチャを体験する講座が計画された。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>著名なスポーツ選手を活用することで、運動・スポーツに興味や憧れをもち、キャリア教育にもつながる効果が期待できる。しかし、オリンピック・パラリンピックを実際に見に行ったり、手伝いやボランティアをしたりすることは、遠方の為、現実味を帯びていない。</p> <p>体験したことをどう生かし、実践につなげていくか。そして、「する・みる・支える・知る」をバランスよく実施していくことについては、体育科を中心に総合的な学習等と関連付けながら実施していきたい。</p> <p>また運動習慣定着に向けて、地域と連携した取組と体力向上につながる具体的な取組の工夫と継続的な実施が今後の課題と考える。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>「する・みる・支える・知る」をバランスよく実施していく観点から、来年度はあらかじめ年間指導計画に位置付け、オリパラ教育を計画的に実施していきたい。</p> <p>具体的には、総合的な学習の時間とも関連させ、オリパラの内容・歴史を深めたり、人権教育参観日と関連させたり、図画工作科等様々な教科との関連を図ったりし、オリパラ教育を進めていきたい。</p>